

「元奨学生に対する奨学金の効果等に係る意識調査」結果

令和8年7月

独立行政法人 日本学生支援機構

＜ 目 次 ＞

I 調査の概要

1. 目的	p.3
2. 調査対象	p.3
3. 調査方法	p.3
4. 調査時期	p.3
5. 回答受入状況	p.3
6. 調査結果の概要	p.4
7. 調査票の見方	p.4

II 調査結果

1. 回答者の基礎情報

(1) 貸与・給付校の学種	表1-1	p.5
(2) 奨学生本人の年齢	表1-2	p.5
(3) 奨学生本人の現在の就労状況	表1-3	p.5
(4) 奨学生本人の直近1年間のおおよその収入	表1-4	p.6
(5) 奨学生本人が現在生計を共にしている家族（複数選択）	表1-5	p.6

2. 奨学金への評価

(1) 日本学生支援機構の奨学金の必要性（択一）	表2-1	p.7
(2) 奨学金制度についてのイメージ（複数選択）	表2-2	p.7
(3) 奨学金情報の認知経路（複数選択）	表2-3	p.8
(4) 奨学金がどのように役に立ったか（複数選択）	表2-4	p.8
(5) 進学したことで得られたもの（複数選択）	表2-5	p.9
(6) 進学前、在学中に意識していたこと（複数選択）	表2-6	p.9
(7) 奨学金を利用して進学したことはよかったと思うか（択一）	表2-7	p.10
(8) 日本学生支援機構の奨学金を勧めたいと思うか（択一）	表2-8	p.10

3. 返還の負担感

(1) 主に奨学金を返還していた（いる）方（択一）	表3-1	p.11
(2) 申込時の想定と比べた返還の負担感（択一）	表3-2	p.11
(3) 想定より負担になった原因（複数選択）	表3-3	p.12
(4) 返還の負担の影響先（複数選択）	表3-4	p.12
(5) 返還完了した際の気持ち（複数選択）	表3-5	p.13

4. 新たなネットワークへの参加

(1) 新たなネットワークに参加したいと思うか（択一）	表4-1	p.14
(2) 奨学金を利用した経験談の提供方法（択一）	表4-2	p.14
(3) 連絡を差し上げることの可否（択一）	表4-3	p.14

5. 自由記述

(1) 「2 - (8) 日本学生支援機構の奨学金を勧めたいと思うか（択一）」における 回答の選択理由	p.15-16
--	---------

(2) 奨学金を巡る昨今の報道についての意見	p.17-18
(3) 奨学金の利用を希望する学生等に対する心構え、アドバイス、メッセージ	p.19-20

「元奨学生に対する奨学金の効果等に係る意識調査」結果

I. 調査の概要

1. 目的

本機構の奨学金を実際に利用された方の声を集め、今後の奨学金制度の運用についての改善や情報発信に役立てるための基礎資料を得る。

2. 調査対象

平成16年以降に奨学金を利用された対象者のうち、システムで無作為に抽出した499,181人。

(内訳)	① 給付終了者	47,733 人
	② 返還完了者	201,449 人
	③ 返還中の者	249,999 人
	計	499,181 人

3. 調査方法

日本学生支援機構に届出された対象者の携帯電話番号について使用履歴調査を行い、実在と判定された携帯電話番号宛に、令和7年12月1日（月）から令和7年12月12日（金）にかけてSMS（ショートメッセージ）でアンケートリンクを送信し、リンク先のアンケートフォームより回答を得た。

4. 調査時期

令和7年12月1日（月）～ 令和7年12月19日（金）

5. 回答受入状況

有効回答者数： 37,175人 有効回答率： 8.1%

区分	人数				比率
	給付終了	返還完了	返還中		
調査対象抽出数 (A)	47,733	201,449	249,999	499,181	
SMS送信数 (B)	43,851	191,828	241,449	477,128	95.6% (B) / (A)
SMS到達者数 (C)	41,913	185,617	233,295	460,825	92.3% (C) / (A)
回答数 (D)	2,666	16,578	17,931	37,175	8.1% (D) / (C)

6. 調査結果の概要

Ⅱ-2. 奨学金への評価について

- ・奨学金の必要性について、給付終了者、返還完了者、返還中の者それぞれにおいて、50%前後の者は「奨学金がなかったら進学できなかった」と回答しており、利用前の奨学金制度に対するイメージからは、利用者にとって本制度が自身の進学の支えになると同時に、家族の負担を軽減するという側面も持った制度であることが確認できた。
しかし一方で、貸与奨学金利用者においては、奨学金利用が借金を負うことになると捉え、将来の返還に不安を感じていた者の割合も高かった。
- ・在学期間を振り返り、専門的な知識や技術の習得、職業選択の広がりを得られたと感じている者が多く見られ、奨学金を利用して進学したことへの満足度について「とてもそう思う」または「ある程度そう思う」と回答した者はいずれにおいても70%以上であった。

Ⅱ-3. 返還の負担感について

- ・90%前後の者が奨学金の返還を自身で行っており、そのうちの半数以上が申込時の想定通りに返還を行うことができていた（いる）と回答していた。一方で、物価高による影響等の原因により、想定より返還を負担に感じていた（いる）者も多く、返還の負担は主に食費や固定費等の生活にかかる費用、貯蓄に影響を与えていることが確認できた。

Ⅱ-4. 新たなネットワークへの参加について

- ・学生等に対し、奨学金制度についてより身近で具体的に考える機会の提供を目的とした新たなネットワークについて、60%以上の者は参加に消極的であることが分かった。
一方で、方法や内容等今後の検討課題はあるものの、積極的な参加意欲を見せる者が一定数存在することも確認できた。

Ⅱ-5. 自由記述

- ・奨学金の推奨度における回答選択理由、奨学金を巡る昨今の報道についての意見、奨学金の利用を希望する学生等に対する心構え・アドバイス・メッセージについて、自由記述式で回答を募った。

7. 調査結果における留意事項

- ・各表は無回答、不明を除いた割合で集計を行っている。
- ・単位は人である。
- ・集計時には四捨五入をした数を使用しているため、内訳の数の合計が合計欄の数と一致しない場合がある。
- ・複数選択の設問における表の各回答割合は、合計しても100%にならない。
※ 各回答の割合は回答者数の合計に対する割合である。
- ・本報告書に記載した意見等は、いただいた回答全件を分析対象とし、複数の視点より内容を確認した上で抜粋している。
なお、公表可否の判断については、個人識別の可能性及び第三者への影響の観点から行っており、意見等の方向性や評価の内容による選別は行っていない。

Ⅱ．結果の概要

1. 回答者の基礎情報

(1) 貸与・給付校の学種

表1-1

(単位：人)

区分	給付終了		返還完了		返還中	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
高等専門学校	-	-	101	0.6%	60	0.3%
短期大学	313	11.7%	1,079	6.5%	870	4.9%
大学	1,318	49.4%	9,950	60.0%	11,853	66.1%
大学院	-	-	2,533	15.3%	1,636	9.1%
専修学校（専門課程）	1,035	38.8%	2,915	17.6%	3,512	19.6%
計	2,666	100.0%	16,578	100.0%	17,931	100.0%

(2) 奨学生本人の年齢

表1-2

(単位：人)

区分	給付終了		返還完了		返還中	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
20歳以下	274	10.3%	104	0.6%	139	0.8%
21歳～25歳	2,347	88.0%	1,648	9.9%	4,527	25.2%
26歳～35歳	44	1.7%	7,070	42.6%	10,547	58.8%
36歳～45歳	1	0.0%	7,486	45.2%	2,519	14.0%
46歳～55歳	0	0.0%	231	1.4%	171	1.0%
56歳以上	0	0.0%	39	0.2%	28	0.2%
計	2,666	100.0%	16,578	100.0%	17,931	100.0%

(3) 奨学生本人の現在の就労状況

表1-3

(単位：人)

区分	給付終了		返還完了		返還中	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
正社（職）員・従業員／常勤社（職）員	1,940	72.8%	12,893	77.8%	14,002	78.1%
パート・アルバイト・派遣・契約社員等 その他の社（職）員・従業員	305	11.4%	1,819	11.0%	2,164	12.1%
自営業／家業	37	1.4%	680	4.1%	639	3.6%
学生（留学を含む）	265	9.9%	337	2.0%	158	0.9%
専業主婦（夫）	9	0.3%	463	2.8%	257	1.4%
無職・失業中／休職中	88	3.3%	304	1.8%	597	3.3%
その他	22	0.8%	82	0.5%	114	0.6%
計	2,666	100.0%	16,578	100.0%	17,931	100.0%

(4) 奨学生本人の直近1年間のおおよその収入

表1-4

(単位：人)

区分	給付終了		返還完了		返還中	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
100万円未満	398	14.9%	1,043	6.3%	1,096	6.1%
100万円以上200万円未満	403	15.1%	921	5.6%	1,238	6.9%
200万円以上300万円未満	881	33.0%	1,826	11.0%	2,941	16.4%
300万円以上400万円未満	603	22.6%	2,693	16.2%	3,790	21.1%
400万円以上500万円未満	209	7.8%	2,797	16.9%	3,305	18.4%
500万円以上600万円未満	42	1.6%	2,452	14.8%	2,248	12.5%
600万円以上700万円未満	9	0.3%	1,663	10.0%	1,196	6.7%
700万円以上800万円未満	7	0.3%	996	6.0%	653	3.6%
800万円以上900万円未満	2	0.1%	588	3.5%	375	2.1%
900万円以上1,000万円未満	0	0.0%	392	2.4%	209	1.2%
1,000万円以上1,100万円未満	0	0.0%	276	1.7%	154	0.9%
1,100万円以上1,200万円未満	0	0.0%	127	0.8%	49	0.3%
1,200万円以上	1	0.0%	364	2.2%	224	1.2%
答えたくない	111	4.2%	440	2.7%	453	2.5%
計	2,666	100.0%	16,578	100.0%	17,931	100.0%

※「答えたくない」には無回答を含む。

※ 給付終了者は、令和2年度以降に採用された給付型奨学生を対象としている為、卒後年数の短い層が中心となっている。

このため、年齢構成や収入構成は貸与型奨学金の利用者とは単純に比較できない点に留意する必要がある。

(5) 奨学生本人が現在生計を共にしている家族（複数選択）

表1-5

(単位：人)

区分	給付終了		返還完了		返還中	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
一人暮らし	1,188	44.6%	4,303	26.0%	6,281	35.0%
配偶者・パートナー	129	4.8%	9,217	55.6%	6,990	39.0%
子ども	29	1.1%	6,575	39.7%	3,894	21.7%
親	1,177	44.1%	2,728	16.5%	3,868	21.6%
祖父母	245	9.2%	365	2.2%	513	2.9%
きょうだい	615	23.1%	974	5.9%	1,629	9.1%
その他（親戚・友人・恋人など）	103	3.9%	230	1.4%	475	2.6%
答えたくない	38	1.4%	262	1.6%	308	1.7%
回答者数	2,666	-	16,578	-	17,931	-

※割合は回答者数に対する割合。複数回答のため、合計は100%を超える。

2. 奨学金への評価

(1) 日本学生支援機構の奨学金の必要性（択一）

学校へ進学するにあたり、日本学生支援機構の奨学金をどの程度必要としていたか尋ねた。

対象者のうち、給付終了者、返還中の者については、50%以上が「奨学金がなかったら進学できなかった」と回答した。

表2-1

(単位：人)

区分	給付終了		返還完了		返還中	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
奨学金がなかったら進学できなかった	1,558	58.4%	7,993	48.2%	11,960	66.7%
奨学金がなくても進学できたが、必要だった (奨学金があつて良かった)	1,061	39.8%	7,688	46.4%	5,528	30.8%
奨学金の有無はあまり関係なかった	47	1.8%	897	5.4%	443	2.5%
計	2,666	100.0%	16,578	100.0%	17,931	100.0%

(2) 奨学金制度についてのイメージ（複数選択）

奨学金の利用を検討する際、制度についてどのようなイメージを持っていたか尋ねた。

いずれも「家族に負担をかけずに済む」と回答した者が最も多かった。

また、給付終了者については60%以上、返還完了者、返還中の者については50%程度の者が「経済的に進学を諦めなくて良くなる」、「学生生活を支えてもらえる」と回答した。

一方で、「将来の返還を考えると不安になる」、「借金を負うことになる」と回答した割合は、返還完了者が40%以上、返還中の者が55%以上と、いずれも高い結果となった。

表2-2

(単位：人)

区分	給付終了		返還完了		返還中	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
経済的に進学を諦めなくて良くなる	1,728	64.8%	8,008	48.3%	9,494	52.9%
学生生活を支えてもらえる	1,657	62.2%	8,129	49.0%	7,600	42.4%
家族に負担をかけずに済む	1,874	70.3%	10,515	63.4%	10,233	57.1%
無理のない範囲でアルバイトができる	874	32.8%	3,986	24.0%	3,718	20.7%
国の制度であるため安心	1,105	41.4%	4,756	28.7%	4,270	23.8%
友人や先輩も利用しており、利用することに抵抗が少ない	358	13.4%	2,978	18.0%	2,656	14.8%
学業成績次第で支給停止や返還を求められる場合があるため不安	577	21.6%	-	-	-	-
将来の返還を考えると不安になる	-	-	7,277	43.9%	9,984	55.7%
借金を負うことになる	-	-	7,511	45.3%	9,981	55.7%
制度が複雑である	310	11.6%	1,132	6.8%	2,002	11.2%
その他	22	0.8%	170	1.0%	186	1.0%
回答者数	2,666	-	16,578	-	17,931	-

※割合は回答者数に対する割合。複数回答のため、合計は100%を超える。

(3) 奨学金情報の認知経路（複数選択）

給付終了者、返還中の者に、日本学生支援機構の奨学金を検討する際、どこから情報を得たか尋ねた。

どちらも「学校主催の説明会」と回答した者が最も多かった。

また、どちらも35%以上が「親やきょうだい等の家族」を選択しており、学校及び家族が主な認知経路であることが確認できた。

表2-3

(単位：人)

区分	給付終了		返還中	
	人数	割合	人数	割合
学校主催の説明会	1,431	53.7%	11,587	64.6%
金融教育等の授業	39	1.5%	209	1.2%
学校の教職員	1,106	41.5%	5,343	29.8%
親やきょうだい等の家族	941	35.3%	6,492	36.2%
友人や先輩等の知人	111	4.2%	684	3.8%
日本学生支援機構ホームページ	651	24.4%	2,599	14.5%
日本学生支援機構以外のサイトやSNS	76	2.9%	208	1.2%
テレビや新聞等の報道	29	1.1%	111	0.6%
企業等が主催する説明会	6	0.2%	22	0.1%
特にない	31	1.2%	356	2.0%
その他	31	1.2%	65	0.4%
回答者数	2,666	-	17,931	-

※割合は回答者数に対する割合。複数回答のため、合計は100%を超える。

(4) 奨学金がどのように役に立ったか（複数選択）

学生生活を送るうえで、日本学生支援機構の奨学金がどのように役に立ったか尋ねた。

いずれも「家族の負担を軽減できた」と回答した者が最も多く、次いで「学業を継続できた」と回答した者が多かった。

表2-4

(単位：人)

区分	給付終了		返還完了		返還中	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
学業を継続できた	1,936	72.6%	8,297	50.0%	11,664	65.0%
家族の負担を軽減できた	2,059	77.2%	12,164	73.4%	11,937	66.6%
修学費（書籍、教材の購入など）に充てる金額を多くできた	974	36.5%	3,626	21.9%	4,747	26.5%
アルバイトの時間を増やさずに済んだ	826	31.0%	5,000	30.2%	4,343	24.2%
心に余裕を持って充実した学生生活を送ることができた	1,200	45.0%	5,580	33.7%	4,582	25.6%
きょうだいの進学や進路選択に良い影響があった	323	12.1%	1,932	11.7%	1,464	8.2%
学業や就職活動に専念することができた	952	35.7%	3,656	22.1%	3,461	19.3%
特に役に立たなかった	12	0.5%	206	1.2%	259	1.4%
その他	10	0.4%	127	0.8%	131	0.7%
回答者数	2,666	-	16,578	-	17,931	-

※割合は回答者数に対する割合。複数回答のため、合計は100%を超える。

(5) 進学したことで得られたもの（複数選択）

在学期間を振り返り、進学したことで得られたものについて尋ねた。

いずれも「専門的な知識や技術を身に付けることができた」と回答した者が最も多く、特に給付終了者は80%近くの者がこの回答を選択していた。次いで、「将来のキャリアや職業選択の幅が広がった」と回答した者が多かった。

表2-5

(単位：人)

区分	給付終了		返還完了		返還中	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
専門的な知識や技術を身に付けることができた	2,113	79.3%	10,420	62.9%	11,487	64.1%
将来のキャリアや職業選択の幅が広がった	1,606	60.2%	8,999	54.3%	9,421	52.5%
生涯にわたって付き合っていくような良い友人・仲間にめぐりあえた	1,252	47.0%	7,298	44.0%	7,518	41.9%
幅広いものの見方や教養を身に付けることができた	1,265	47.4%	6,989	42.2%	6,980	38.9%
社会人になってからではできない経験をすることができた	1,105	41.4%	7,451	44.9%	7,054	39.3%
整った環境で研究や学業に取り組むことができた	1,033	38.7%	5,052	30.5%	5,012	28.0%
その他	17	0.6%	228	1.4%	306	1.7%
回答者数	2,666	-	16,578	-	17,931	-

※割合は回答者数に対する割合。複数回答のため、合計は100%を超える。

(6) 進学前、在学中に意識していたこと（複数選択）

奨学生として、進学前、在学中に意識していたことについて尋ねた。

給付終了者は「学業に専念し、成績の維持・向上に努めること」と回答した割合が65.4%と最も高く、その他の項目においても給付終了者の回答の割合は、返還完了者、返還中の者に比べ全体的に高い結果となった。

一方、返還完了者、返還中の者は「将来のキャリアや進学について考えること」と回答した割合が38.4%、41.7%と最も高く、「在学中及び社会人になってからの生活設計」については、給付終了者よりも高い結果となった。

表2-6

(単位：人)

区分	給付終了		返還完了		返還中	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
将来のキャリアや進学について考えること	1,347	50.5%	6,367	38.4%	7,486	41.7%
学業に専念し、成績の維持・向上に努めること	1,744	65.4%	6,258	37.7%	6,516	36.3%
学業とアルバイト・課外活動を両立させること	1,046	39.2%	4,879	29.4%	5,647	31.5%
奨学金を受けて学修することの意義	663	24.9%	2,251	13.6%	2,319	12.9%
在学中及び社会人になってからの生活設計	577	21.6%	4,091	24.7%	4,023	22.4%
社会への貢献	289	10.8%	942	5.7%	881	4.9%
その他	10	0.4%	108	0.7%	154	0.9%
特になし	76	2.9%	2,780	16.8%	2,655	14.8%
回答者数	2,666	-	16,578	-	17,931	-

※割合は回答者数に対する割合。複数回答のため、合計は100%を超える。

(7) 奨学金を利用して進学したことはよかったと思うか（択一）

日本学生支援機構の奨学金を利用して進学したことがよかったと思うかどうか尋ねた。

「とてもそう思う」または「ある程度そう思う」と回答した割合は、給付終了者は97.7%、返還完了者は81.5%、返還中の者は73.1%であった。

一方で、「あまりそう思わない」または「まったくそう思わない」と回答した者は返還完了者が6.1%、返還中の者が10.3%であった。

表2-7

(単位：人)

区分	給付終了		返還完了		返還中	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
とてもそう思う	2,268	85.1%	7,388	44.6%	5,876	32.8%
ある程度そう思う	337	12.6%	6,114	36.9%	7,223	40.3%
どちらともいえない	48	1.8%	2,061	12.4%	2,994	16.7%
あまりそう思わない	6	0.2%	651	3.9%	1,158	6.5%
まったくそう思わない	7	0.3%	364	2.2%	680	3.8%
計	2,666	100.0%	16,578	100.0%	17,931	100.0%

(8) 日本学生支援機構の奨学金を勧めたいと思うか（択一）

経済的理由で進学を悩んでいる人がいた場合、日本学生支援機構の奨学金を勧めたいと思うかどうか尋ねた。

給付終了者は、「とてもそう思う」と回答した者が71.0%と最も多かった一方、返還完了者及び返還中の者は、「ある程度そう思う」と回答した者が最も多かった。

また、「どちらともいえない」と回答した割合は、給付終了者が6.0%、返還完了者が23.6%、返還中の者が28.0%であり、給付奨学金利用者と貸与奨学金利用者の間で、回答率に20ポイント程度の差が見られた。

表2-8

(単位：人)

区分	給付終了		返還完了		返還中	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
とてもそう思う	1,894	71.0%	4,124	24.9%	3,139	17.5%
ある程度そう思う	587	22.0%	6,346	38.3%	6,123	34.1%
どちらともいえない	161	6.0%	3,917	23.6%	5,018	28.0%
あまりそう思わない	16	0.6%	1,396	8.4%	2,211	12.3%
まったくそう思わない	8	0.3%	795	4.8%	1,440	8.0%
計	2,666	100.0%	16,578	100.0%	17,931	100.0%

3. 返還の負担感

※返還完了者、返還中の者のみ

(1) 主に奨学金を返還していた（いる）方（択一）

対象者に、主に奨学金を返還していた（いる）方（お金を払っていた（いる）方）はどなたか尋ねた。

いずれにおいても、90%前後の者が「自分（奨学生本人）」と回答していた。

表3-1

(単位：人)

区分	返還完了		返還中	
	人数	割合	人数	割合
自分（奨学生本人）	14,290	86.2%	16,942	94.5%
奨学生本人の親	898	5.4%	430	2.4%
自分と親の双方で負担	898	5.4%	353	2.0%
配偶者（夫または妻）・パートナー	139	0.8%	149	0.8%
就労先の企業	11	0.1%	42	0.2%
自治体	3	0.0%	4	0.0%
その他	339	2.0%	11	0.1%
計	16,578	100.0%	17,931	100.0%

(2) 申込時の想定と比べた返還の負担感（択一）

奨学金申込時の想定と比べ、奨学金の返還をどのように感じた（ている）か尋ねた。

返還完了者では、「想定以上に順調に返還できていた（繰り上げ返還等）」または「想定通りに返還できていた」と回答した割合は、返還完了者が66.7%となった。

一方、返還中の者については、「想定以上に順調に返還できている（繰り上げ返還等）」及び「想定通りに返還できている」と回答した割合と、「想定よりもやや負担に感じている」及び「想定以上に負担に感じている」と回答した割合が、ほぼ同率という結果となった。

表3-2

(単位：人)

区分	返還完了		返還中	
	人数	割合	人数	割合
想定以上に順調に返還できていた（いる） （繰り上げ返還等）	4,251	25.6%	782	4.4%
想定通りに返還できていた（いる）	6,815	41.1%	8,242	46.0%
想定よりもやや負担に感じていた（いる）	3,699	22.3%	5,399	30.1%
想定以上に負担に感じていた（いる）	1,813	10.9%	3,508	19.6%
計	16,578	100.0%	17,931	100.0%

（３）想定より負担になった原因（複数選択）

（２）で「想定よりもやや負担に感じていた（いる）」または「想定以上に負担に感じていた（いる）」と回答した者に、奨学金申込時の想定よりも負担になった原因について尋ねた。

いずれにおいても「物価等が上がり、想定以上に生活費の負担が増えたから」を選択した者が最も多く、特に返還中の者は80%近くに及んだ。

表3-3

（単位：人）

区分	返還完了		返還中	
	人数	割合	人数	割合
実際に返還する金額について意識していなかったから	1,918	 34.8%	2,399	 26.9%
物価等が上がり、想定以上に生活費の負担が増えたから	3,511	 63.7%	7,110	 79.8%
不測の事態（病気やケガ等）により出費が増えたから	930	 16.9%	1,701	 19.1%
想定していた収入を得ることが出来ていなかった（いない）から	2,120	 38.5%	3,264	 36.6%
自分自身に返還義務があることを知らなかったから	112	 2.0%	153	 1.7%
その他	419	 7.6%	459	 5.2%
回答者数	5,512	-	8,907	-

※割合は回答者数に対する割合。複数回答のため、合計は100%を超える。

（４）返還の負担の影響先（複数選択）

（２）で「想定よりもやや負担に感じていた（いる）」または「想定以上に負担に感じていた（いる）」と回答した者に、返還の負担が影響していた（いる）と感じる具体的な点について尋ねた。

いずれにおいても、「食費」、「食費以外の固定費（家賃や、光熱費等）」、「貯蓄」を選択した割合が高い結果となった。

表3-4

（単位：人）

区分	返還完了		返還中	
	人数	割合	人数	割合
食費	2,489	 45.2%	5,224	 58.7%
食費以外の固定費（家賃や、光熱費等）	2,863	 51.9%	5,481	 61.5%
貯蓄	2,741	 49.7%	4,109	 46.1%
趣味・娯楽・自己投資	1,892	 34.3%	2,589	 29.1%
結婚	1,638	 29.7%	2,220	 24.9%
出産	1,198	 21.7%	1,715	 19.3%
持ち家取得	780	 14.2%	1,228	 13.8%
親やきょうだいへの援助（仕送り）	407	 7.4%	1,063	 11.9%
他の借入れの返済（カーローン等）	1,145	 20.8%	2,250	 25.3%
仕事	701	 12.7%	1,207	 13.6%
その他	181	 3.3%	344	 3.9%
回答者数	5,512	-	8,907	-

※割合は回答者数に対する割合。複数回答のため、合計は100%を超える。

(5) 返還完了した際の気持ち（複数選択）

返還完了者に対し、奨学金の返還を完了した際の率直な気持ちについて尋ねた。

「負担から解放されて安心した」と回答した割合が74.6%と最も高く、次いで「大きな達成感があった」と回答した割合が高かった。

表3-5

(単位：人)

区分	返還完了	
	人数	割合
大きな達成感があった	6,207	37.4%
負担から解放されて安心した	12,371	74.6%
返還を続けてきたことで自信がもてた	1,330	8.0%
感謝の気持ちが強くなった	2,444	14.7%
特にない	1,110	6.7%
その他	457	2.8%
回答者数	16,578	-

※割合は回答者数に対する割合。複数回答のため、合計は100%を超える。

4. 新たなネットワークへの参加

(1) 新たなネットワークに参加したいと思うか（択一）

元奨学生に対し、「奨学金の利用を検討している学生等に、より身近で具体的に考える機会を提供することを目的とした新たなネットワーク」への参加意欲（参加意向）を尋ねた。

「あまり参加したくない」または「参加しない」と回答した割合は、給付終了者が63.0%、返還完了者が76.9%、返還中の者が75.7%であり、特に貸与奨学金利用者の多くが、参加に消極的な姿勢であることが伺える結果となった。

一方で、「是非参加したい」または「内容によっては参加したい」と回答した割合は、給付終了者が37.0%、返還完了者が23.1%、返還中の者が24.3%であり、給付終了者の40%近くが参加に前向きであることも確認できた。

表4-1

（単位：人）

区分	給付終了		返還完了		返還中	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
是非参加したい	115	4.3%	346	2.1%	388	2.2%
内容によっては参加したい	872	32.7%	3,486	21.0%	3,971	22.1%
あまり参加したくない	645	24.2%	3,758	22.7%	4,359	24.3%
参加しない	1,034	38.8%	8,988	54.2%	9,213	51.4%
計	2,666	100.0%	16,578	100.0%	17,931	100.0%

(2) 奨学金を利用した経験談の提供方法（択一）

奨学金を利用した経験談について、どのような形であれば提供いただけるか尋ねた。

いずれも「提供しない」と回答した者が最も多かったが、具体的な提供方法の中では「文章提供」と回答した割合が最も高かった。

表4-2

（単位：人）

区分	給付終了		返還完了		返還中	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
文章提供	821	30.8%	3,487	21.0%	3,882	21.6%
オンラインインタビュー	88	3.3%	812	4.9%	845	4.7%
学生向けイベント（座談会や、相談会）	151	5.7%	830	5.0%	1,022	5.7%
SNSや動画	77	2.9%	285	1.7%	496	2.8%
提供しない	1,489	55.9%	10,710	64.6%	11,284	62.9%
その他	40	1.5%	454	2.7%	402	2.2%
計	2,666	100.0%	16,578	100.0%	17,931	100.0%

5. 自由記述

(1) 「2 - (8) 日本学生支援機構の奨学金を勧めたいと思うか(択一)」における回答の選択理由(自由記述)

【参考】日本学生支援機構の奨学金を勧めたいと思うか(択一)

(単位:人)

区分	給付終了		返還完了		返還中	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
とてもそう思う	1,894	71.0%	4,124	24.9%	3,139	17.5%
ある程度そう思う	587	22.0%	6,346	38.3%	6,123	34.1%
どちらともいえない	161	6.0%	3,917	23.6%	5,018	28.0%
あまりそう思わない	16	0.6%	1,396	8.4%	2,211	12.3%
まったくそう思わない	8	0.3%	795	4.8%	1,440	8.0%
計	2,666	100.0%	16,578	100.0%	17,931	100.0%

前述の「日本学生支援機構の奨学金を勧めたいと思うか(択一)」について、対象者に回答の選択理由を尋ねた。

本設問に対し、何らかの記述がみられたのは6,993件である。

このうち「特になし」等、具体的な記述のない14件を除き、計6,979件の回答を得た。

回答の選択理由について、選択肢ごとの傾向は以下の通り。

①「とてもそう思う」

経済的な理由で進学を諦めずに済む等「教育の機会均等」に関する理由が最も多く、次いで「低リスク(低金利・無利息)」及び「学びへの意欲や経験」に関する理由が多く見られた。

また、「奨学金に対する感謝」、「キャリアの向上」及び「責任感・自立」に関する理由も確認できた。

②「ある程度そう思う」

①と同様に、「教育の機会均等」に関する理由が最も多かった。次に多く見られたのは「返還の覚悟や進学目的が明確であれば勧める」であったが、「返還の負担」及び「借金」に関するマイナスの理由も同程度確認できた。

また、他の選択肢と比較して「選択肢の一つとしての提案」及び「無利子ならば勧める」が理由として多く挙げられており、「他に選択肢がないから」等の消極的な理由も散見された。

③「どちらともいえない」

「借金であること」及び「返還の負担」に関する理由を挙げる者が多く、「安易に勧められない」、「子どもには勧めない(親が払いたい)」が続く結果となった。

また、「本人の意思や見通し次第」及び「奨学金を借りてまで進学する意義」に関する理由が、他の選択肢と比べて多かった。

④「あまりそう思わない」

③と同様に、「借金であること」及び「返還の負担」に関する理由が最も多く、次点が「子どもには勧めない(親が払いたい)」であった。

また、ライフイベント等「将来設計」に関する理由や、「利子の負担」及び「できれば借りずに済むのが一番」等の理由が、他の選択肢と比べて多いことが確認できた。

⑤「まったくそう思わない」

「借金であること」が最も多い理由であり、続いて「返還の負担」及び「子どもには勧めない(親が払いたい)」という理由が多く確認できた。

また、少数ではあるものの「奨学金の名称問題」、「学歴は就職に関係ない」及び「外国人(留学生)」に関する理由が挙げられていた。

全体を俯瞰すると、給付奨学金利用者は「とてもそう思う」と回答した者が最も多く、「家族の経済的な負担を軽減でき、進学を諦めずに済んだ」等、「利用して良かった」という自身の経験が主な理由として挙げられた。

対して、貸与奨学金利用者は「どちらともいえない」と回答した者が最も多く、その主たる理由としては「進学目的が明確である場合、選択肢の一つになり得る」一方、「返還の負担があるため、安易に勧められない」ことが浮かび上がった。

以上より、貸与奨学金利用者は給付奨学金利用者と比べて、自分の子どもや後輩等に対し、奨学金の利用を勧めることに慎重となる傾向が伺える結果となった。

なお、その他「高等教育の無償化」や「奨学金制度の拡充」に関する意見が多く寄せられた。

以下、得られた回答より一部抜粋したものを紹介する。

①「とてもそう思う」	給付終了	経済的な理由で学業を諦めるのは、不可抗力だとしても勿体無いし、奨学金を負い目に感じるのではなくて、ある種の責任感を持って生活を送ろうと思える。
	返還完了	大学に進学したことでキャリア形成の幅が間違いなく広がり、今の状態になることができたと思っているので、経済的な事情で諦めるよりも奨学金の選択肢があることはとても良いことだと思っています。
	返還中	高校卒業後、3年間のフリーター生活を経て大学に進学した。入学金は自身で用意したがそれ以降の学費は全て奨学金によって賄った。また、それ以外の生活費についても一部お世話になった。この奨学金がなければ大学に進学することも大学生活を充実したものにすることもできなかったで、本当に心の底から感謝している。 大学は可能性を広げてくれる場所だと思うので、費用の問題で進学できないのであれば活用を積極的に検討すべきだと思う。
②「ある程度そう思う」	給付終了	成績や本人の頑張り次第ではあるが、お金のことで苦勞することや学生の本分に集中出来ないようなことが軽減されるため、悩んでいる方はぜひ検討して欲しい。
	返還完了	「借りられそうなら借りておこう」ではなく、返済計画や金利の話等を奨学生自身がよく理解した上で、借りることを選択肢に入れてほしいと思う。 また、他の奨学金についてもよく調べて比較検討したほうが良い。
	返還中	結果的に返済の事を具体的に考えていなかったでこんなに負担になるとは思わなかった。よって、もし将来子供が奨学金を申請したいと言ったときにはかなり躊躇すると思う。しかし経済的には頼らざるを得ないと想定している。
③「どちらともいえない」	給付終了	制度は良いが、複雑なためしっかりと理解してから利用してほしい。 そのため、一概には勧めづらい。
	返還完了	奨学金は借金であるため、借金を背負ってまで学ぶ価値のある進学なのか、慎重に見極めなければならないから。働いたことのない学生が、将来借金を返す（しかも金利ありの場合、非常に大きな額となる）ことについて、どこまで理解しているか、心配なため。
	返還中	私は過労で体調を崩し、正社員として働けなくなってしまい、その際に今後返済できるのか、生活できるのか、不安に感じるがありました。 上記の経験を踏まえて、将来、自分自身で返済していく必要があることを考えると、自分本位で勤めるのは良くないと思いました。進学の方法として提案はするものの、メリットとデメリットを説明した上で、奨学金にするかどうかは自分で考えてもらう方が良くと思い、どちらともいえないにしました。
④「あまりそう思わない」	返還完了	自身は、高校生の時点では借りる金額の大きさを実感できていなかった。普通に就職すれば特に問題なく返していける金額と認識していた。しかし、どこでどんな仕事に就くか、結婚や出産などの人生プランにどれだけ影響を与えるか、想像しきれない要素も多く、よほどの覚悟を持って借りなければならなかったことを痛感したため。そしてそれを子どもや後輩に認識させるのは容易ではないと思うため。
	返還中	学生時代は感じなかったが社会人になると月数千、数万円の返済が重荷になる。結婚にも弊害となるため安易に借りる選択肢を与えたくない。自分にも子供がいるが、私だったら奨学金という重荷を課したくない。その分親の私が貯金するかして担保してあげたい。
⑤「まったくそう思わない」	返還完了	学生ローンと何ら変わらない制度であり、時代にあっていない。卒業してから借金生活がスタートする現状なので学生時代は楽になるが、社会人になってから非常に大変である。私自身結婚も子供も全て諦めた。社会勉強にもなったので奨学金を借りて大学に行けたのはよかったが、今の現状を考えると高卒で貯金していた方が幸せだったかもしれない。私のような人生を今の若い人たちには送って欲しく無い。
	返還中	奨学金という名前で、将来的に返済する必要がないイメージだったが、実際は借金と同じなので自分の子供には勧めない。

(2) 奨学金を巡る昨今の報道についての意見（自由記述）

全対象者に、「奨学金を巡る昨今の報道について、実際に奨学金を利用された経験を踏まえ、ご意見等があれば記載してください。（自由記述）」と尋ねた。

本設問に対し、何らかの記述がみられたのは5,340件である。

このうち「特になし」等、具体的な記述のない188件を除き、計5,152件の意見を得た。

回答内容をテーマ別に分類したところ、「奨学金の返還負担」に関する意見が最も多く見られた。

一方で、返還に対する自覚や制度理解の重要性について言及する意見も複数見られ、将来の返還を具体的にイメージできる情報発信を求める声が多く寄せられた。

また、返還に関する報道に加え、海外留学生に対する奨学金や、政策報道に触れた意見も確認できた。

さらに、奨学金利用者やその家族に対する偏見が生じることへの懸念、これから奨学金の利用を検討する者にとって心理的な負担の増加や、利用のハードルが高くなることを懸念する意見も見られ、多面的な情報発信の必要性を指摘する声が上がった。

以下、寄せられた意見より一部抜粋したものを紹介する。

◆現在の報道に対し違和感を訴える声

（返還中）「返還が負担になっている」というネガティブな面の報道が、やや強すぎるように感じる。借りるという決断をするにはそれなりの検討と覚悟は必要なので、そういった面の報道は必要だと思うが、ややバランスを欠いているように思う。返還不要の奨学金は魅力的だが、当然その枠が少なく、私が申請したような貸与型の奨学金が好ましくないものと見なされるのは、不本意に感じている。貸与型の奨学金の意義も、今より公平に報道されることを希望する。

（返還完了）Xなどでは思ったより奨学金＝親が進学に必要な資金を用意できてない、親の不出来といったネガティブな印象を持たれている人の意見をいくつも目にしました。そういうところから「借金を負う」という思考が広まると学生の未来はないし、それでも頑張って子育てをしている人々がショックを受けてしまったりすると哀しいです。経済的余裕があるわけではないし、そのための奨学金制度だと思いますので、ネガティブイメージが広まらないようにはしていただきたいです。

（返還中）奨学金制度を若い人たちに借金させる制度と捉える報道について、私は社会全体の不利益につながると感じています。そもそも奨学金は借りたい人に貸しているお金なので、返還義務は当然です。超低金利な上、事前説明や返済開始前の説明、相談窓口など非常に手厚い仕組みがある制度です。奨学金の利用を躊躇う人が出ないように、正しい情報が扱われるべきと考えます。学生自身の意思だけでは利用できないので、保証人や連帯保証人になる親世代の理解、周知がこれからも重要だと思います。

（給付終了）高校及び大学の授業料無償化や留学生及び日本人学生間の奨学金の差などが問題になっていると思います。この問題には、貴機構の奨学金制度を知らないために、奨学金制度に不満を抱えているケースがあると思います。そこで、効果的な広報に力を入れるべきであると思います。

（返還中）報道内容が「返済に苦しむ」「借金を背負う」ようなネガティブなことが多いイメージが多く散見されます。しかし、私は奨学金を利用したことで大学へ行き、そこで学んだことを現職で生かすことが出来ています。確かに社会人のスタートで何百万の負債を抱えることは不安にはなりますが、そこにフォーカスするのではなく、奨学金を利用してまで学んだことを社会人でこう活かしているというポジティブな報道も必要ではないかと思います。

（返還完了）私は奨学金がなければ進学できなかったし、下のきょうだいの進学費用も当時はとても心配でした。それらの問題を解決してくれた奨学金には感謝しかありません。奨学金に対するネガティブな報道は、大切な選択肢を貶められるような気持ちになって少し不快です。借金であることは事実ですが、他にこんな良い条件でお金を貸してくれるところはない。今の学生さんが、報道によって奨学金を利用することに躊躇いを覚えたり、利用しなければいけない自分の家庭環境を恨むことになってほしくないと思っています。

◆現在の報道に対する共感の声

（返還完了）負債を抱えることへの意識が不十分な人が多いことは事実。実際に返済が始まるまでは自分も最初はそうだった。返済負担だけでなく、周囲からの評価（例えば、負債があることで婚活等でマイナスに見られる）、病気で働けなくなることへのリスク等、より包括的な影響を丁寧に説明することが求められると思う。

（返還完了）奨学金があったから進学が出来たという事もあり感謝している。だが同時に昨今の報道でいわれているように社会人になったばかりで返済すべきお金が多くある状況はとても辛く思う。不景気、物価高の中、10年以上掛けて返済していくのは気が遠くなる思いだった。結論、奨学金は自分の将来を広げてくれる制度だと思うので、後悔しないようしっかりと考え利用するかを決めれば良いと思う。

（返還中）報道を支持します。私は教員になりましたが、社会人一年目は、手取り20万円を下回っていました。そんな中の返済はとても厳しく、重くのしかかっていました。現在、ライフステージが変わり結婚して、家を建てましたが、まだ返済期間が10年以上あると思うと将来が不安になります。

（返還完了）新卒採用の際には返還は可能と思いがちだが、物価の高騰、増税、ライフバランスの変化は想像の域を遥かに超えてくる。返還が滞れば給与の差し押さえという恐怖も大きい。生きていくことよりも返還を強いられるのは何のために働いているのかわからなくなるのも理解できる。返したくても返せない現実も理解してほしい気持ちはよくわかる。「返せないなら最初から借りなければいいのでは」ではないと思う。しかし社会人として借りたものは返す努力は必要かとも思う。

（返還完了）返済不要でない場合は明確に借金であるという意識が薄い方が多いので、現状のように返済が滞ったケースや困窮してしまったというケースは続けて報道していくべきと思う。

（返還中）奨学金を利用した本人として、そう言われることも仕方ないとも思います。私自身、大きな借金を抱えてしまったという認識があり、しかしながら、その選択をしたからこそ大学に進学ができ、資格を取得して働くことが出来ています。周りの評価を中心とした考えではなく、結局は自分自身がどう感じるかが重要だと思います。

(3) 奨学金の利用を希望する学生等に対する心構え、アドバイス、メッセージ（自由記述）

全対象者に、「今後、奨学金の貸与（給付）を希望する学生に対して、特に大切だと思う心構えや、アドバイス、メッセージがあれば記載してください。（自由記述）」と尋ねた。

本設問に対し、何らかの記述がみられたのは5,067件である。

このうち「特になし」等、具体的な記述のない62件を除き、計5,005件のメッセージ等を得た。

寄せられた回答の中には、経済的な理由で進学を躊躇う人への応援の言葉や、実際に返還を行っている者、返還を終えた者からの返還負担に関する声、こうしておけばよかった等の経験談など、多様なメッセージ、アドバイスが見られた。

以下、得られたメッセージ等より一部抜粋したものを紹介する。

◆進学目的、キャリアを見据えることの大切さについて

（返還中）奨学金を借りて進学する意義やその先の社会に出てからの自分の姿を想像して、本当にお金を借りるのかどうかはよく考えた方が良いでしょう。覚悟の上の決断であれば、得られるものは本当に多く、その先の道も開けると思います。
自分で自分の人生を切り開いてください！

（返還完了）大学への進学が当たり前の時代になってきていますが、奨学金を借りることは将来への投資です。つまりリスクもあります。何を学びたいか、どうして学びたいかを自分の中でしっかり吟味し、借りたお金に見合う人生経験をしてください。

（給付終了）時間のあるうちに将来について深く考え、目指す姿になるためにどのような知識、経験、技術が必要か具体的な道筋をたててほしい。また、役に立たないからと排除せず、目の前のことや思い付きででも挑戦して、選択肢を増やしてほしい。

（給付終了）学費や生活費の問題で大学進学を諦めるのはもったいないです。大学生活で色々な方と関わることで、自分の世界が広がります。ただ、借りる際には自身の「大学に行く目的」をはっきりさせてください。通う大学やスキル等の能力を考えて、卒業後の返還シミュレーションを立てることが大切だと思います。

（返還完了）進学して学びたい、身につけたいことがあり、経済的に難しい状況にある子供にとってはとてもありがたい制度だと思います。ただ、貸与型の奨学金を受けたのであればそれはあくまでも借金であり、自分が返済しないと次の子供たちへの貸与や給付ができなくなる制度だという自覚を持って、ただ学ぶだけでなく、同時に将来の就職に関しても学生時代から計画を練っておくことが重要だと思います。わたしはこの制度にとっても助けられました。将来の返済義務を背負ってでも学びたいことがある、と頑張っておられる後輩の皆さんに幸多かれと願います。

◆学生生活について

（返還完了）奨学金は自分が借りるお金です。自分で決断し自分の責任で進学を選ぶことは覚悟がいることだと思います。雰囲気決めずによく考えて、納得して決めてください。

そして、借りたからには大学を最低限の単位でただ卒業するのではなく、興味のあることは学べるだけ学んで卒業してください。奨学金を使っていない人や、子供に奨学金を使わせなかった大人からは色々な意見を言われることもあるかもしれませんが、奨学金を使っている同級生や奨学金を使って卒業した大人は、自分で奨学金を借りて進学を決めたあなたを応援しています。

（給付終了）必要な人が、未来ある学びたい人が、諦めなくていい選択肢。適切に支援を受けながら学業に勤しむ事は本当に有意義な結果に繋がるので、どうかその空いた手間を、限り少ない学生生活を、充実させて欲しいなと思う。

(返還中) 就職して1、2年程度は生活基盤を整えたり仕事とプライベートの両立を目指したりと、奨学金の返済が大変な場面もあるかと思いますが、ある程度の年数働けば段々と負担に感じることもなくなっていくと思います。返済年数は長いですが、有意義な学生生活を送ることができれば後悔することは少ないはずです。大学は高校までとは違い、自分の意思で動かなければ何も変わらない場面が増えます。学生生活をどのようなものにするかは自分次第です。大学時代にしかできないことを楽しんで、勉強も怠らず頑張ってください。

(返還中) 高校を卒業したばかりのとき、お金の価値を何も分かっていませんでした。結構な額を奨学金として借りていたのだと実感したのは社会人になってから。とはいえ、お金の価値を知るために大学生にバイトに専念せよ、とは言いません。皆さんがすべきは本業に力を入れること。授業や実験に力を注いでください。お金は、就職できればバイトなどよりずっと稼げますので、今しかない経験を大学でたくさん積んでください。

(返還完了) 勉強だけでなく、社会人になってしまってからでは学べない事も沢山あるので。机に向かうだけでなく、色々な所に目を向ける事も大切にしたいです。ですが、本業は学生です。卒業後の返還がある事を忘れず、就職や向かう所を考えて欲しいと思います。遊び過ぎていると、思うような給与が無い所へ就職する事になったりし、更に負担になるのは自分自身です。

◆返還義務について

(返還中) 言い方は悪いかもしれませんが、いわば借金と同じで将来的に返還していくわけですが、学びたいことがありどうしても進学したいけど経済的に苦しい方は、将来の自分への投資だと思って、きちんと計画を持って奨学金を借りられるといいと思います。進学してその時に学べること、出会う人、全てが財産になります。また、自分より下の代の人たちにもきちんと奨学金制度が働くように、自分が社会人になったら、きちんと返還してください。

(返還完了) お金を借りてまで進学したいのか、今一度よく考えた方がいい。奨学金とは言っているが、借りているお金。「借金」であることを理解した方がいい。進学せずに就職をしてコツコツと技術と経験を積むか、借金をしてまできちんとした知識と技術を学んでいく覚悟とその先のキャリアまで見通してみても後悔のないようにしてほしい。

(返還完了) 自分が奨学金を利用できたのは、きちんと返済した先輩方がいるからだという当時の話を、今でも覚えています。学生のみなさんには、ぜひ、奨学金を自由に活用していただきたいです。そして、次の人のためにきちんと返済してもらえたら、素晴らしい制度として今後も維持できるのかなと思います。私にとっては、お金と自分の将来について考える、よいきっかけになりました。

(返還中) 経済的理由で進学や学業の継続を諦めてしまうのはもったいないと思う。また、アルバイトで学業が疎かになり留年すれば莫大な資金が必要になるので本末転倒。そういった点では奨学金を利用するのは有益な選択肢の一つである。ただ、同時に将来的に必ず返済していくことになるので闇雲に上限まで借りるということはせず、必要最低限のラインを見極めることが大切。

(返還完了) あくまで借りているのであって、返すのは自分だということ。就職できなくても返さなきゃいけないのでちゃんとそれを踏まえて就労した方が良い。せっかく借りてるお金なんだから、ちゃんと自分の生活を豊かにするために使った方がいい。やりたいことがある人は奨学金もらってでもアルバイト時間を減らして、学生の時間を有意義に使った方がいい。学生ができることはきっと思ってる以上に多いので。そしてやりたいことをやるには思っているより時間が必要なので。